

核データセンタの設立について

百田光雄(日本原子力研究所)

核データに関する諸般の国内サービスと、国際協力の窓口としての役目をはたすとともに、核データの収集整理、評価、群定数の作成等いわゆる核データの整備を行なうための中心的組織の必要性は、シグマ委員会の発足のときから事あるごとに強調されてきたところである。シグマ委員会の活動が実り多いものになり、また IAEA や ENEC による国際協力が盛んになつてきた昨今、そして更に、動力炉開発の事業が本格的に発足し核データに対する需要が一段と活発になろうとしている昨今では、このことはますます痛切に感じられるようになってきた。

このような情勢の許で、本年7月には日本原子力学会会長から原子力局長あてに(原子力学会誌 9 P.512 (1967))、また、NAIG 総合研究所長、MAPI 研究所長、日立中研王禅寺支所長の連名で原研理事長あてに、データセンタ設立に関する要望書が呈出され、来年度から原研に「核データセンタ」が設置される見通しがよりやく濃くなつてきた。しかし「センタ」が設置されるといっても、初年度から理想的な陣容のものとして発足するのではなく、数年間かゝつて遂次発展することにならうので、多年の念願がかなえられる足がかりができつつあるのが現状であろう。したがつて特に初期のうち、現在のシグマ委員会のワーキンググループの仕事が「データセンタ」にたゞちに移行することは期待できないであろう。「センタ」はまず何か重点を置いて仕事を始めなければならないと考えられるが、その「重点」については衆智を集めて、センタの成果が最も効果的にあげられるようにしたいものであるので、大いに御意見をお寄せ下さるよう各位にお願いする次第である。